



「雉はじめて鳴く」

感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会

雉はケーンと鳴く。途中から登場してきた2人が車いすの女性の浦川先生と舞原健だったとは。家族と教育との関係、モンスター・アレントになる人とその周囲、30年などという時間が、何が欠けていて、何が大切だったかを教えてくれるような気がしました。誰もが一生けんめい生きていく気がしました。おもしろく観させていただきました。

(ハッピープリンス 春日井治 70代)

スクールカウンセラーのポンポンと出てくる会話がおもしろかったです。お母さん役の熱演も光りましたね。健役の演技も繊細な部分が伝わりました。浦川先生役の岩井さん素敵でした。こんな先生いたら、生徒はあこがれますよネ。身近におこっているかもしれない問題をとりあげていて、引きこまれるように見入りました。舞台の回転、使い方も工夫がありました。場面の展開がわかりやすかったです。

(宙 石橋須美江 60代)

内容がすごくよかったです。言葉や行動が納得。最後にビックリ!

(1102 無記名)

セクハラのことなど、今時の感覚に近づいている内容で良かったです。兎相の充実とか、虐待から子どもを守る取り組みが大事と本当に思います。

(きらきら星 松崎佐智 40代)

今の時代の問題と課題をえぐった、よい作品でした。

(無記名)

私は演劇の楽しみ(醍醐味)に、どんな返しがあります。今回の場合は、最後の車椅子の人物が先生と健であったことすると脚本、そして、演じられたものは、二人の回想劇だったのであろうか?多くの余韻と、宿題を与えてくれた、濃厚な舞台でした。

(宙 田口誠雄 70代)

それぞれ的人物の個性が際立ち、面白いお芝居でした。見終わって、ストーリーについて、考えさせられました。先生はどこまで生徒に責任を負わなければならぬのか。ずっと、車椅子の女性と一緒にの男性はお父さんと思っていたので、最後の場面は良い終わり方だったな、と思いました。(ザットトルテ 女 50代)

学校現場で起きるいろいろなことを取り上げたお芝居なのだろうな、と思って臨んだ今日でしたが、深く重く、そしてとても面白いお話でした。拝見しながら沢山のことが浮かんでどんどん引き込まれました。最後にあの2人がケン&浦川先生の30年後だったとわかり、上演途中にその伏線に気づけなかったのが残念でしたが、それがとても良かったです。ありがとうございます。追伸・津田沼に笑えました!!新京成のどこかの駅の高校だった? (パンプキン 築瀬)

どのように終るのか?気が気でなかった。:「独りになった」と云ったケンのセリフ。母親が亡くなつて独りになったと云うことか?非日常的な空間で思考回路をめぐりました。

(無記名)

役者さんの演技がすばらしく舞台演出も洗練されていて、とても楽しめました。ただ、背景に現われた男女が誰なのかわからず、ナゾ解きのようになつてしま、最後に浦川先生と健だとわかった時は拍子抜けしてしまいました。又、劇の舞台となつたような子どもの避難所になれるような学校はめつたにないのでは、と少しひねくれた目で見えていました。(Xふなばし 滝桂子 60代)

展開が早く少しとまどいましたが、十分理解しました。校長先生の落ち着きが、良かったです。

(じゃんけん 清宮昭夫 70代)

健は苦しい家庭の事情を相談できる担任の先生がいて、なんとか毎日が救われていたのだと思います。身勝手な話し合いのできない母親をもつて健がついに逃げ出してしまふ選択をしたのは、よくわかります。その時母親が倒れ、病院、そして施設に入ってしまった、健にとっては良かったと思います。

母親も自分の境遇を変えることができずアルコールに逃げ、息子につらくあたりながらも息子のことを思っている。なんとか親子関係を改善できれば、ホッとできたのですが、そううまく現実はいかずでした。実際子供達は学校、家庭の中で苦しんでいる子達がたくさんいるのではないのでしょうか。その苦しさを学校の先生や仲間たちにわかってもらえて、健にとつて精神的な苦しきさからかなり解放されたのではないのでしょうか。それからの30年間頑張つて生きてこられたのも、あの時があったからかもしれません。担任の浦川先生の、いつでも受けとめてくれるといった言葉がきつとささえになったのでしよう。浦川先生もそういう時がいつかくるのを、結局30年間も待たせてくれたのですね。最後がうれしかったです。

(ひさし 廣瀬直美 70代)

浦川先生の立場が自分だったらどうしたのだろうか、つくづく考えさせられた。それぞれの人達すべてが愛を求めているのだなあ。当然、自分も含めて、と思えました。

(無記名 女 60代)

セットが荒涼とした感じで驚いた。話は切実で、それぞれの立場の違いと、教師が高校生の悩みの相談にのる難しさを感じた。(ライラック 奥田 女 70代)

今の時代に重いテーマでしたが、舞台のしかけ等が工夫されていて楽しめました。役者さん1人1人の上手さが感じられました。(ハイネ 中川奈津子 60代)

どんな内容かもわからず、多忙でない時期として、運営サークルの活動に臨みました。結果は会員増、根分けを実現して、近年稀にみる貢献をすることができました。

さて、肝心のお芝居の方ですが、作家の横山さんと、会員の息子さんが船橋時代の同窓生だったこともあり、首都圏記念講演会にも出席し、少しはイメージを広げることができたかと思えます。動く舞台空間と、清水さんの熱演が印象的でした。途中から現われた車イスの女と、それを介助する男、結末はこれか？30年後？何か無理矢理な気がして納得できない。いろいろな人物がかかり合つて、学校という社会の中に凝縮した社会問題が噴出し、「ケーン！健！：」と叫ぶところがクライマックス。このお話に日本語の答え、言葉はありません。観た人が各々考えてください、と制作の方が言っていました。私の場合、「さまよえる愛のスタンス」でも。

(フエーシップ 谷女 70代)

雉が初めて鳴くのは冬の最中(さなか)であるという。しかしそこには厳しい季節にもかかわらず、やがて来る春の訪れへの期待と、これから家族をつくるという強い気持ちがある。

『雉はじめて鳴く』という日本語古来の云い伝えに基く床しさと簡潔な力強さを併せ持ったタイトルのように本作も家族の絆というものの不思議な優しさとかまじさを共に盛り込んだ作品であった。母原病に悩む若者が周囲の助けを借りながら潰されることなく自立していくストーリーには誰でも共感できる幸せがある。今風の若者達の口舌満載の物語でありながら、高年者にも受入れられる普遍性が心地良い。「いい加減なものはお見せ致しません！」という劇団俳優座の心意気に幸あれ！

(じゃんけん 糠澤尚夫 80代)

多感な年頃の少年達の心の問題の難しさ、家庭の不和による子供の心の傷の痛々しさを感じ、やるせない思いをしました。(演劇の注文として)：セリフを言う時は観客の方を向いて演じてほしい。女学生のセリフが聞こえにくいと言う人が多かった。(昂 米山奉子 80代)

深い話ですね。それしか言えない。

(無記名 70代)

健の母親が可哀想でした。学校で騒動を起こしたあと、健を連れて帰れないと悟り、一人で帰ったところを、頭痛で倒れ、救急車で運ばれてしまう。それを観ていると、健の母親も、健と同じく被害者に見えてきます。僕には健の母親が、経済的・家庭的な理由だけでなく、過去に受けていた教育も影響して、健を真っ直ぐに愛せなかったと捉えられました。まさに「大人社会」の被害者なのです。僕は教育現場にいる人間ではないので、詳しいことは分かりませんが、読んだり聞いたりした感じだと、現場は大変なのだと思っています。いじめにしても、いじめつ子は加害者にみえるが、実は被害者だということ、本で読みました。普通の子供が、家庭の事情などで、同級生に辛い思いをさせてしまうのは、互いを苦しめるだけで、何の益もない。しかし、それをさせているのが今の労働状況と、子供に激しい競争を強いる教育状況なので、すから、国の失政には憤るばかりです。国は「子ども家庭庁」といいますが、まずは現場の教師や親の意見をしっかりと聞いて、それを実行に移してほしいです。

(ラ・シーク 菅田基 40代)

児童相談所までの流れが、一つのモデルケースとして形になっていたのが良くわかりました。心の動き方や話し方がとてもわかりやすく良かった。

(さわらび 関和典子 50代)

高校時代、ワンダーフォーゲル部に入つて、山登りして、調理師になったので、自分が思い出されます。むずかしい生活でした。金はないし仕事は大変だった。人前に出るのに10年かかった。

(ハッピープリンス 田中弘之 60代)

中国伝来の七十二候「雉初雉(雉はじめて鳴く)」という意味深な劇名が、まづ気にかかる。雉は真冬に恋に目覚めるというのか。今日の舞台は建築途上現場のようで、なににでも使えるユニーク造りが今風といえようか。でも、そこで芝居を演じる俳優さんが危ない橋を渡る危険を伴い、運動神経を研ぎ澄ます訓練が必要になる、観客はいわれなければ気づかず「洒落た舞台だ」くらいに思うだけだ。

芝居の中身は、学校と家庭と、人はみな生まれてそこで育っていく。様々な要素が絡まって些細なことで心がらかつて、学校といえども話があらぬ方向に広がって面倒なことになるらしい。そんな瞬間をうまく掬い上げた芝居だった。青春時代はさまざまな夢をもち、夢に向かつて夢中に羽根を伸ばそうと一途になる。そういう意味で、主人公「健」は、ひとりで家計を背負っていかなければならない母親からの重圧に押しつぶされる辛い日々にあつたが、まだ幸せ者だ。なぜなら、部活仲間にも頼まれながら、永いあいだきれいな浦川先生と付き合えたのだから。終幕近くで30年後に車椅子に乗った年老いた浦川先生と健との会話を聞いて、しげんと盛大な拍手をしながら、自らを顧みて「オレにもそんな青春があつたらうか」と鈍い頭脳を回転させてみたが、残念ながらどこにも見つけられなかったからである。

けれど、こんな一瞬が芝居を観る醍醐味なのかと、手が痛くなるほど拍手してしまつたのだった。俳優座バンザイ！

(スズロ ムラタ)



おめでとうございます！

「雉はじめて鳴く」サイン色紙当選者

1165 宙 石橋須美江さん
1593 昂 米山奉子さん
2274 ひさし 廣瀬直美さん

※当選した方は申し出てください。

良かったです。
(サーモスタット 脇田智恵子 60代)

例会参加者 1537名

(参加率 82.9%)

アンケート枚数 24枚 (回収率 1.3%)

当日会員数 1,855名